

公益社団法人日本ビリヤード協会
平成 26 年度事業報告

1 組織

公益移行に関して

2月21日、内閣府より諮問が終了したとの連絡をいただき、2月28日付で答申をいただきました。これにより4月1日より当会は公益社団法人日本ビリヤード協会としてスタートします。本HPがアップされる4月1日、午前中に登記の電子申請をいたしました。

完了しました。

25年度中にはNBA本部が日本体協に加盟する予定でしたが、公益移行の作業を優先いたしました。26年度中に完了させたいと思います。

本年度中には完了できませんでした。

資格認定、指導員制度、審判員制度の明文化が必要となります。システムが稼働するまでに数年を要しますが、制度だけは明文化されている必要があります。現在スリークッションの審判員制度があり公益申請の書類としても提出しました。スポーツ団体として必須の事業です。

現在CSの刷新案とあわせて検討中です。単年度での達成はありえません。

2 普及事業

協会のアピールとしては適切な運動量と、頭を使うことによる認知症防止、コミュニケーション等があります。現在増えている高級高齢者施設では、入居者のニーズに応える姿勢をとっており、その中にビリヤードも入っているようでいくつかの問い合わせもありました。講師派遣依頼がくればできるだけ協力お願いします。公共の高齢者施設には全撞工の協力でテーブル貸与・贈呈を続けてゆきます。

若年層への普及も重要です。児童館などからオファーが来れば極力受けるようにして下さい。いずれも、一度二度はボランティアでも、度重なるようでしたら本部にご相談ください。多少の補助はできますが、基本は支部としてもやらなければならない事業です。協会所有のミニテーブルは、引っ越し便で送ることができますので、各地のイベントで使うことは可能です。

長崎にテーブルを運送した折には約10000円でした。所有する、あるいは所有する近隣の支部内から発想すれば沖縄・離島を除けばこの金額で収まります。

子供(主として小学生)用のミニキューを全撞工から100本購入しました。普通のキューと比べ、少し短く、軽く、細いという理想の形状です。必要な支部に配布します。本部では2014体育の日イベントに参加しました。

学校対抗・学生選手権

競技会ではありますが、学生層への普及のため、学校対抗選手権も継続します。かなりの事業支出を伴いますが絶対に続けてゆかなければならない大会といえます

26年度より全日本学生選手権を開催します。フリーエントリーで既設会場を予定していますので、あまり経費はかからない予定です。

学生選手権は全国から46名の参加者がありました。経費はフィーでまかないましたが、参加賞の記念品を協力金から支出しました。予断になりますがオリンピックエントリーで組織委員会がWCBSに求めた調書に、ジュニア・学生の大会の開催状況という項目があり、堂々とジュニア15回、学生チーム戦(学校対抗)15回、学生個人戦(2回)と記入することができ、やはり必要な大会であったと再認識しました。

3 選手強化

2017年、中華台北で開催されるユニバーシアードにビリヤードがデモンストレーション種目として採用されました。ジュニアオリンピックカップ・学生選手権と連携を図りながら2017年に備えます。今後の国際大会は下記のとおりですが、ビリヤードの採用はユニバーシアード以外は決定していません。

2014 アジア大会 韓国

終了(不採用)

2015 アジアインドア&マーシャルアーツゲームズ トルクメニスタン

未定 2017年に変更

2019 アジア大会 ベトナム・・・ビリヤードが盛んなので可能性はある

ベトナムが経済事情でキャンセル。インドネシアに変更。ビリヤードは現時点では不採用。

2017 東アジア大会 中止→発展的解消→2019年アジアユースゲームズとなる

未定

2016 ユニバーシアード 中華台北・・・デモンストレーション競技として採用

決定と思われる。

2017 ワールドゲームズ ポーランド・・・4回連続で採用されているので可能性大

リーフレットに記載されているので決定と思われる。

4 ジュニア

ここ数年日本のジュニアクラスは層・レベルと共にかなり充実していましたが、その充実したメンバーが徐々にジュニアを卒業し、世代交代を迎えています。このクラスは常に新メンバーが登場していないといけないのですが、全国的に選手層が薄くなっ

ているのが現状です。タレント発掘も協会の重要な仕事であり、また、ジュニアの充実はそのまま普及にもつながります。またジュニア・学生層への普及は体協加盟や地区教育委員会とのつながりが有効な手段であり、組織の発展ともつながりをもってきます。

例年通り開催、オリンピック有望選手研修会に2名参加。

5 国体記念大会

国体は平成28年岩手まで参加が決定しています。

和歌山国体記念大会は特設会場で、第2回大会以来のポケット・キャロム同一会場開催となります。

予定通り事業完了。

6 大会開催・・・トーナメントスケジュールによる。

7 大会派遣・・・例年通り世界選手権に代表を派遣。

8 各種委員会

アンチ・ドーピング委員会

実際に検査対象となるトップ選手の属するJPBAとJPBF、そしてNBA本部で構成した委員会で活動しています。今年度は3大会で8検体の検査を予定しています。それにとともなうTOTOの助成は申請済みです。

2大会4検体の検査を実施。全陰性。27年度からポケットビリヤードにも検査導入につき、2月、JPBAプロ選手を対象に講習会を開催。

CS委員会

実際に回転しているシステムにつき、今までは急激に大きく変更することは不可能でしたが、現状は過去最低ラインであり、一新すべき時期がきています。

登録方法を根本的に見直すべく企画進行中。

助成金審査委員会・選手選考委員会

必要に応じ開催します。本年和歌山県ビリヤード協会に15万円の助成をする予定です。

和歌山は自己資金のみで事業完了しました。

協力金委員会

ほぼ正常に回転しています。システム自体は問題ありません。

2015年初頭から、オリンピックエントリーの話が持ち上がり、WCBS 会長招聘のため30万円の支出をしました。

ルールブック委員会

ルールブック完成後ほぼ解散状態でしたが、ポケット・キャロム・スヌーカーとも経年による見直しをします。委員会を再度立ち上げるかどうかは未定です。実情に応じて変更という形をとるかもしれません。

近年の用具・器具の導入、10ボールの一般化に対しルールブックを大幅に更新しました。JPBAとJAPAのメンバーによる協議結果をNBAとして採用ということで、委員会の再編成はしていません。

普及指導委員会

普及指導委員会を設置しました。当面は2017年ユニバーシアードと関連をつけ高校を中心に、学校・児童館・高齢者施設にビリヤードを紹介する活動を行います。

イベント参加等が中心、テーブル貸与1件、ミニキュー配布数件にとどまりました。

9 震災募金に関して

震災後3年が経過したため、事業計画の筆頭からははずしますが、メンテナンス費用がかからないので、期限を区切らず続けます。

エキストラ オリンピックに関して

東京オリンピック ビリヤード競技

2014年12月8日、モナコで開催された国際オリンピック委員会(IOC)臨時総会にて、40項目にわたる提案書がすべて満場一致で可決されました。この提案書は「AGENDA2020」と呼ばれ、その1項目に「開催都市は従来のオリンピック種目でない競技を1つ、又はいくつか採用できる」というものがあります。

この決定に従い、日本オリンピック委員会(JOC)では、正加盟団体で、かつ、世界組織がIOCに認められた団体すべてに門戸を開くことにしました。必要な手続きを経て無事にエントリーしましたが、年度が開け(平成27年度)方針が変更となり、世界組織がIOCに認められた団体(IOC承認団体)すべてに門戸を開くことにしました。このためビリヤードは10団体(推定)の中のひとつだったのですが現在は26団体の中のひとつとなっています。

ビリヤードが採用される可能性は低いのが現状ですが、候補に上がるだけでも協会の活動として効果は絶大です。

NBA では年度内に、イメージビデオのアップロード(WCBS が素敵な映像を作成してくれました)、インフォメーション欄の新設(最初のころは間違っただ情報が流れ飛んでいた)、署名運動(27/6/10 時点で約 33,000 筆)、WCBS 会長の招聘(ごあいさつ)、をしました。